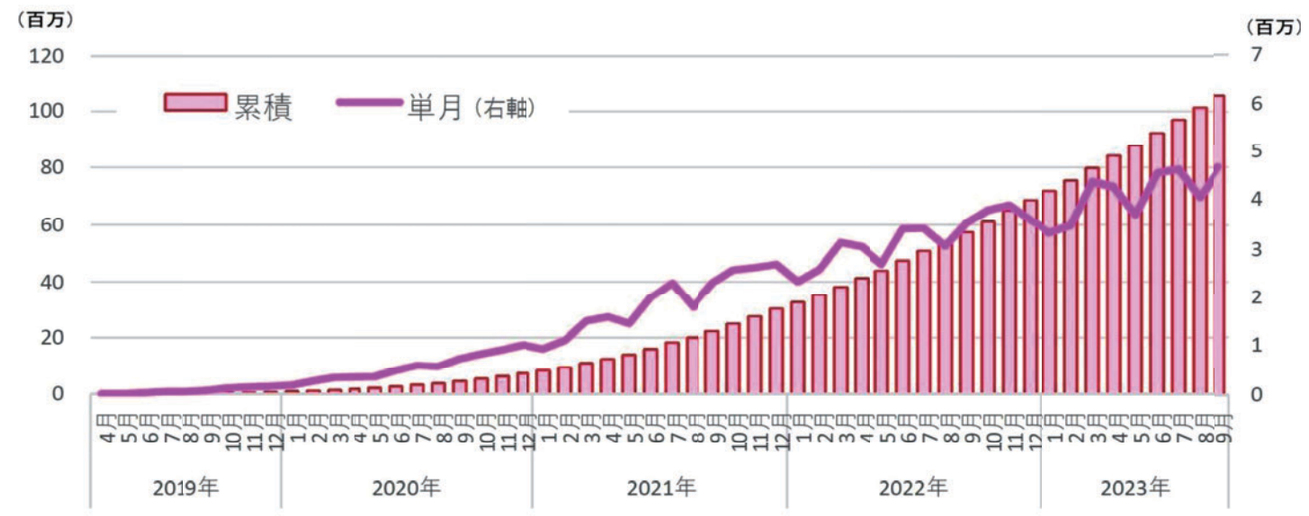
CCUS広がる可能性

小規模現場でも使いやすく

新サービスが続々

建設業振興基金が運営する建設キャリアアップシステム（CCUS）は、技能者の経験と技能レベルを就業履歴として蓄積し、その経験と技能レベルに応じた賃金支払いの実現を目指すもの。さらに登録と利用が進めば、技能者の処遇改善だけでなく、事業者による施工体制や技能者の出退勤管理など、活用シーンが広がる可能性を感じる。ただ、基金の担当者は、「都市部や大手・中堅ゼネコンで登録が進む一方、一戸建て住宅などの小規模現場や地方部への広がりが課題になっている」と言う。CCUSの現状と、基金が2023年夏から23年度末にかけて相次ぎ打ち出している新たなサービスを見る。



登録技能者一人当たりの履歴数は月４件弱にとどまる（2023年9月）

CCUSは、19年４月の運用開始から今年４月で丸５年を迎える。登録事業者数は24万社を超え、都市部の大手・中堅から地方の中小ゼネコンへと登録の裾野が広がりつつある。登録技能者数も１３０万人に達し、技能者の３人に１人が登録する水準に至った。

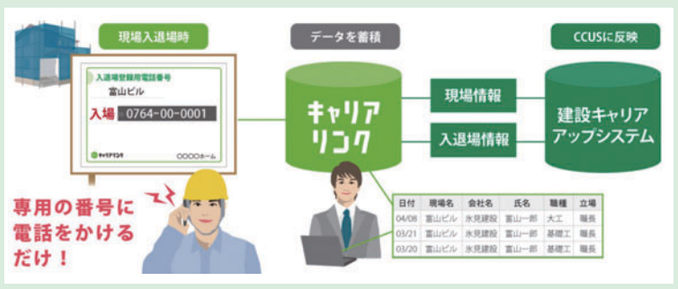
一方で、技能者の就業履歴の蓄積で増え続けているものの、一人当たりの履歴数が伸びていない現状がある。例えば、23年９月単月の就業履歴数（４６７万件）を全登録技能者数（１２８万人）で単純に割り算すると、一人当たりの月の履歴数は４件弱にとどまる＝グラフ参照。

基金が掲げる就業履歴の各年度の蓄積目標は、22年度が３８００万件、23年度が６０００万件。対する実績は22年度が４０６７万件、23年度は９月末時点で２５９０万件となっている。23年度は進捗が前年度より厳しい状況にあるが、タッチ数が例年、年度末にかけて伸びる傾向もあり、基金の担当者は達成を見通す。

ただ、24年度は、23年度の目標をさらに３割上回る７８００万件を想定。目標達成へは、小規模現場での利用を促し、登録者と就業履歴の蓄積を増やす取り組みが重要になる。

そこで基金が始めた新たなサービスが「安価なカードリーダー」「カードリーダーのロギング機能追加」「キャリアリンクかんたんスタートキャンペーン」の三つ。いずれも小規模現場に携わる元請け業者の負担軽減につながる有益なサービスだといい、基金の担当者は、目標達成への〝３本の矢〟と期待をかける。

電話で就業履歴を蓄積



費用の一部を基金が負担

電話発信で入場登録できるCCUS認定システム「キャリアリンク」（簡易版）は、基金とコムテックス（富山県）が連携し取り組む新サービス。プラン名は「CCUSかんたんスタートキャンペーン」。小規模現場を請け負っている元請け業者向けのサービスで、従来のプランと比べ費用が格安だ。申込期限は２０２６年３月末。

初期費用と技能者のカードタッチ数への出面課金を基金が全額負担することで、元請け業者側で必要となる費用は主に基本料金（１セット当たりの年額１万５０００円、最大５セット）のみ。スタンダードプランと比べて、費用を10分の１程度に抑えることができる。

キャリアリンクは、CCUS認定システムの中で唯一「電話発信」で就業履歴の蓄積が可能。申し込みは、ウェブサイト（https://www.ctx.co.jp/careerlink/campaign）から。

ロギング機能でＰＣ設置不要に

まずは2機種に搭載

一部のカードリーダーに、一時的に就業履歴を保管できるロギング機能を追加した。このカードリーダーがあれば、現場にパソコンを設置しなくても就業履歴の蓄積が可能になる。現場事務所を設置できないような、小規模現場での導入が期待される。

対応するカードリーダーは、CCUS認定の「Ｄｒａｇｏｎ ＢＬＥ」と「ＢＮＲ０１」の２機種。うち「Ｄｒａｇｏｎ ＢＬＥ」はｉＯＳ版 とＷｉｎｄｏｗｓ版をリリース済み。「ＢＮＲ０１」は、23年末にＷｉｎｄｏｗｓ版をリリース。今年３月にはｉＯＳ版をリリースする予定だ。本体価格はいずれも約3万円。アマゾン、ヤフー、楽天の大手インターネット通販サイトで入手できる。

カードリーダーをより安く

安価なカードリーダーの対象製品は、ソニーの「ＰａＳｏＲｉ（パソリ）」のうち、最新型番となる「ＲＣ－Ｓ３００／Ｓ」「ＲＣ－Ｓ３００／Ｓ１」「ＲＣ－Ｓ３００」の3タイプ。型番は異なるが性能は同じ。ＲＣ－Ｓ３００は個人向けに市販されている。他の二つの型番は業務用。価格は約３５００円（税込み・送料別）。ショッピングサイトなどで購入できる。これまで1万～3万円の価格帯のカードリーダーしか使えなかったが、建レコアプリをバージョンアップし、より安価なカードリーダーを使えるようにした。

これまで1万～3万円のカードリーダーしか使えなかった

突き出し

全6段